ぎふSDGsフェスティバル2025

できることから一歩ずつ

未来を創る、あなたのSDGs

ぎふSDGsフェスティバル2025では、県内各地で、SDGsを学び、新たな一歩につながるイベントを開催！さらに取組みを広げる機会として、フェスティバル参加事業者の一部をシリーズにてご紹介します。

Vol.1 ＳＤＧｓつながるマルシェ

大垣西濃信用金庫 ＪＰコーチ＆コンサルティング 東京海上日動火災保険

産学官金連携でＳＤＧｓ発信

11月１日から来年１月31日まで開かれている「ぎふＳＤＧｓフェスティバル2025」。多くの県民に、日々の暮らしの中にあるＳＤＧｓの取り組みを再発見し、さらに広げるきっかけにしてもらおうと、期間中には県や県内のＳＤＧｓに取り組む事業者、自治体による75のＳＤＧｓの関連イベントやキャンペーンが行われる。本企画ではその一部を紹介する。

端材を使ったワークショップや地元食材を使った飲食ブースなどが並んだＳＤＧｓつながるマルシェ＝大垣市郭町、大垣公園

49ブースがずらり 地元高校生も協力

大垣西濃信用金庫・ＪＰコーチ＆コンサルティング・東京海上日動火災保険の３社は、「マルシェを通じて、地域の事業者とお客様をつなぎ、ＳＤＧｓを知ってもらう機会、体験してもらう機会を提供する」をコンセプトに11月９日、大垣市郭町の大垣公園と大垣城ホールで「ＳＤＧｓつながるマルシェ」を開いた。

同マルシェは３社が包括連携協定を締結した２０２２年秋から毎年開いており４回目。西濃地域の企業・団体による、端材を使ったワークショップや地元食材を使ったなど環境に配慮した49ブースがずらり。一品が味わえるキッチンカーなど49ブースがずらりと並び、雨の中多くの来場者でにぎわった。

脱炭素化社会の実現に向けた「わくわく油田プロジェクト」として、家庭などで出る廃食油の回収ボックスも設けられた。集まった油は海津市平田町の日本環境管理センターへ運ばれ、バイオディーゼル燃料にリサイクルされトラックなどで活用される。

さらに今回は、大垣商業高校ビジネス科マーケティング類型の３年生が、授業で取り組んでいる地域の担い手づくりを目的とした実践型プログラム「未来留学」の一環で企画段階から協力。若年層の来場者増に向けてさまざまな案を出し、雑紙を丸めたボールのプールと、段ボール迷路を設置したところ、子ども連れが楽しんだ。また、生徒から集めた古着のフリーマーケットもあり、１枚１００円で販売された。吹奏楽部やそれぞれの強みを生かし、有志バンドの演奏もあった。

大垣商業高校の生徒のアイデアで、雑紙などを入れたボールプールを設置。子ども連れが楽しんだ＝同、大垣城ホール

同信用金庫事業成長推進課の藤井彰課長は「今回は大垣商業高校の生徒にも協力いただけ、産学官金連携による今までにないイベントとなった。今後も３社で地域の企業・団体のＳＤＧｓの取り組みを広く市民に向けて発信していきたい」と話している。

ＳＤＧｓの取り組み

大垣西濃信用金庫、ＪＰコーチ＆コンサルティング、東京海上日動火災保険は２０２２年８月にＳＤＧｓ推進に向けた包括連携協定を締結。同金庫が窓口となってＳＤＧｓに関心を持つ取引先の相談に乗り、東京海上日動が開発したツールを使って診断レポートや宣言書の作成を手助けする。ＪＰ社はコンサルティングで細かくフォローするなどし、ＳＤＧｓ達成に向けて取り組む西濃地域の中小企業をサポートしている。

本企画は、岐阜新聞・岐阜放送が「ぎふ SDGs フェスティバル2025」の参加団体として、新聞６回、放送６回にわたり情報発信をするものです。

ぎふチャン「情報 FRESH」にて放送
2026年1月7日18：20～/9日18：50～/14日18：20～/16日18：50～/21日18：20～/23日18：50～（予定）

ぎふSDGsフェスティバル2025 開催期間 2025.11.1 ▶ 2026.1.31

無断複製・転載を禁じます